

# 研究開発の進め方(概念図)

・既存の研究開発の蓄積を最大限に活用することで、早期に研究開発の実をあげる。

・我が国の得意分野を生かした戦略的取組み。  
・産学官の研究開発能力を結集。科学技術上の進展、産業競争力の強化という波及効果も期待。

メーカーの製品開発力

国際協力資金の活用等

日本

大学等における既存の研究開発

## 研究開発(本研究会の検討対象)

(コンセプト)

- ・人道目的。対人地雷の探知・除去作業を安全かつ効率的に実施するための技術を提供する。
- ・現地における実証試験を行うための試作機開発までを目標。
- ・研究開発全体の総括責任者をおき、戦略を持った取組みとする。開発段階から現地のニーズを取り入れる。

(実証試験用試作機の完成)

製品開発

製品供与

研究開発体制への参画の要請

参画(アドバイザースタッフ) 現地ニーズのインプット

試作機の貸与 評価結果

供与要請 供与

国際機関  
地雷被埋設国  
地雷処理NGO

(研究開発への関与)

実証試験

(試験的利用)

実利用

協定締結\*

協定締結\*

1 ~ 3年間程度(\*) (開発する技術の程度による)

0.5 ~ 3年間程度 (過去の新技術導入の例)

(\*) 中期の開発領域については最長5年間程度

\* 武器輸出三原則の例外となるためには協定締結が必要